女學雜誌

第二百八十一號
明治二十四年九月五日發兌

倫理問題 天地の美 六女學生の答

各女學校 第一（宣教師派女學校）

書生置く家の夫人に告ぐ 悲話有

下六番町六番地 女學雜誌社

(三)

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 281. SEPTEMBER 5TH. 1891.

EDITORIAL: Schools for Girls. (1) The Mission Schools.

MISCELLANEOUS: The Beauty of Nature. (A Question in Ethics.) Famous Girls in American Colleges.

CHILDREN'S COLUMN: "Little Lord Fauntleroy" (A Translation).

THOUGHTS AND FANCIES: Pendulops.

THE HOUSEHOLD: To Ladies who have Students in the House.

NOVEL: [illegible]

EDITORIAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百八十一號目次

○社說 各女學校(一)(ミツシヨン女學校)

●雜錄 天然の美(〔倫理問題〕)、米國女學生の〔illegible〕、米國の有名女子

●兒籃 小公子(若松しづ子)

●隨感 筆のまにまに(〔illegible〕生)

●批評 女子の忠孝〔illegible〕心の露 一名法の露〔illegible〕自由集 / 宗教〔illegible〕新日本史〔illegible〕(〔illegible〕子)

●家政 書生を置く家の夫人に告ぐ(山下〔illegible〕)

●小說 〔illegible〕の〔illegible〕四回〔illegible〕(〔illegible〕子)

●寄書 男爵女學〔illegible〕(〔illegible〕)

●時事 〔illegible〕(〔illegible〕)〔illegible〕風俗〔illegible〕 / 〔illegible〕、アッパー〔illegible〕のバーナル〔illegible〕 / の〔illegible〕花〔illegible〕の增設〔illegible〕一〔illegible〕

●女報

通信女學 明治二十五年第二回新募集廣告

〔illegible〕今日、女學の進步一と方ならず、凡そ年頃の娘君〔illegible〕少なく〳〵、〔illegible〕一家の妻さへ〔illegible〕。〔illegible〕

〔illegible〕改めて第二回の〔illegible〕者を募る。

〔illegible〕歷史、〔illegible〕理、倫理、〔illegible〕記、理化學、生理學、動植物〔illegible〕、和文、〔illegible〕、漢文、〔illegible〕本、〔illegible〕地理、〔illegible〕學。〔illegible〕山〔illegible〕太郎、〔illegible〕木〔illegible〕

〔illegible〕半年分前金一圓八十錢、〔illegible〕一切前金に非れば發送せず。〔illegible〕廿五日第一回を發兌し、以後每月廿五日に〔illegible〕一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科に〔illegible〕。

東京麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八十一號 明治二十四年九月五日發兌

社説

各女學校

(一)宣教師派女學校

宣教師派の女學校に對する世評區々なれど、其多くの評判は至つて好ましからぬ方なり。啻に教の門外に於て若く評するのみならず、門内に於ても略ぼ同樣の評を爲す。西洋の事と云へば何事にも重きを置きたるとのある人士は、亦た西洋人の事と云へば何事にも惡しく言ふとのあるものなり。風につれて方向を變へ、勢ひに隨つて説を左右にするは、俗人の常態なり。

此派の女學校には明白なる欠典あり、そは具眼者が夙に揚言したる所ろのものにて、之を今更のやうに言ふべきにもあらず。左りとて亦た沒す可らざるの長所ありて、なみ／＼の官私女學校に優れたる資格無きにしもあらず。例せば、入我若しくは異説によりて教育の方針を變轉するとなく、既に十五年又は二十年の上に超ゆる迄で、一定確固の學風を作り、以て一と廉の女秀才を輩出せしめたるなど、彼の内閣の風向と共に學風を變じ、又は資金の不足によりて藹々しからぬ小刀作工に局促とする官私普通の女學校に優る万々の所ろなりとす。

吾人は女子の普通教育法に於て此の派の女學校と意見を異にし、明治十八年來他の同志者を補佐して、日本主義の一女學校を設立し現に尚ほ其教育方に贊成同情を表するものなり。故に多くの點に於て此派と異なりたる愚見を存するは勿論なりと雖へど、之が爲に、此派女學校の秀所及び功績を沒隱するものにあらず。吾人は彼の輕薄人士が、流行の尻馬に乘りて巧みに世上の評判を利用し、嘗て英學熱熾んなりし頃ほひには、率先狂奔して極端の男女交際に周旋したる經歴あるにも關はらず、既に保守熱代り高まるの世の中となりては、俄かに日本主義、國民主義などと絶叫し、近頃に至り女學界に初めて日本風の學校を設けたるとの樣に言囃し、加之ならず恬然として之を廣告するに至りては、片腹痛きとの限と覺たり。見よ、保守熱は正に下りたり、今や復た元の路に反り

つゝあるなり。察するに此中流の輩は、久しからずして復く英學熱にうかさるゝものとあるべし。

かゝる輕浮軟骨の族は左もありなんと思はるれど、堂々たる此派女學校の當路者にして、其の親から爲す所ろの教育を信ぜず、現に其の特種の教育に從事しつゝ、而も己れと之を非難するもの、往々にして存るは歎ずべき事なり。教育は確信の礎に立たずんばある可らず、自から効験なきかを疑がふ所ろの教育者の手には、確固不拔の精神あるものを養成すると能わざる也。

若し其教育法にして宜しからぬ所ろありと認ためなば、正に斷然として之を改たむべし。西洋人之を聴かず提唱說行われがたしと信ぜば、常に訥然として位を去るべし。苟くも然らず、現に西洋人と事を共に與にしながら、人に向っては切りに此の行はれがたきよを唱たへ、火を外部の友人に發して躍り卑見を駁はんとするに至りては、陋劣亦極まると云ふべき哉。吾人はかゝる同胞に對する毎に大日本武士の爲めに竊かに恥づ。而して西洋人を我の爲に念ふの心根はた切なり。

なれど、宣教師諸君も亦た短所なきにあらず、其の日本人を知るの明なくして、潔士を待するの道を有せざるとは、今更ら言ふ迄もなし。但だ夫れ其女學校の主旨目的なるものを一定して、敢て動搖せざるの決心を確と懐抱せずんばある可らざる也。諸君其學校に於て普通學を教授せんと欲するか、普通學に外國語を要せざるは無論の事にて、凡そ文明國に伴する列邦のうち、普通學教授に外國人の手を切要するものはあらざる也。日本現に亦斯の如し、敢て諸君を煩はさずして可なり。遮莫、諸君自から勞して敢て之に當ると云ふか、然らば諸君は、日本教師を主として之に隨從するか、若くは自由に日本語を談じ日本文を讀み此等の便を用て以て教授するかの二途に出でずんばある可らず。諸君もし此二策を採らずんば則はち諸君は普通學教授の外に其主旨とせる所ろを存すべき筈のもの也。

吾人嘗に思ふ、宣教師派女學校にして、若し日本人に全權を委するの勇斷あると、近頃彼の立教女學校に於て見るが如き大快事ありとせば、則はち普通學教授に方針を定むると頗ぶる可なり。其資金十分なるがゆへに、如此き所ろに於てこそ完備したる普通學は教授せらるゝなれ。故に吾人は満腔の同

意を表して、切に其事あらんを佇望す。

然れども、此の快斷を决するの勇なく、依然として宣敎師諸君の手に全權を握らんとを欲すとせば、諸君は諸君の手を以て尤とも好く成就し得べき方向に、針を定めずんばある可らず。即はち少數の書生に甘んじて之に高等の敎育を施こすが如き、直接傳道師を養成するが如き、貧民を敎育するが如き類ひは、其一二と知るべし。

諸君、日本人の手に權を委ぬるとをせず(此は容易に行はれがたき事なり、然あらんとを求むるの日本人は寧ろ無理の注文をなすなり、もし權を握らんとせば、金力なかる可らず、金力なしとせば、補助なくとも獨立すとの精神なかる可らず、二者を欠きつゝ吾等に權を與へよと言ふものは、愚人の事なり、同胞屢ばかく揚言すれど、其とは極めて笑ふべきことあり)、左りとて日本人を重用するともなく、又は超然として其獨得の秀所に安んじ最長の敎育を施こして效を五十年の后に收むるの度量もあらず、彼に半ば心醉し、此に半ば孤疑し、彷徨として、地極極樂の間だにさまよふは、蓋し宗敎家の爲すべき所ろのものにあらず。

宣敎師派女學校が、俗人の注文に應じて追々と課程を變更し、段々と日本學を增加するの傾向あると、並びに此學期以后更に一層其變を强くせんとするに至りたるとは、一是一非の處置と云ふべし。もし、猛然勇斷して大根底を改ためんとすと云はゞ、固より可なり、但だ些々たる小刀細工を以て、寸々刻々に俗界の需めに應じ、今日一點を削り、明日又一點を削り、削々正に了れる時、軀肉脫然として枯骨寒く立つの狀に至らば、何如ん。諸君は倘ほ之を忍ぶべし。レプタ一つ二つを献じて東洋極端の傳道費に義捐し、涙と血とを以て日夜日本女子の爲に祈禱する彼岸幾万の有志者は抑そも之を何如んせん。

昔し老婦ありけり、隣家の女年齒芳紀に近づき、頰豐かにして艶やゝかに、腰細くして優しきを羨やみ、賣藥の能書に隨つて日に腰肉を削りて頰に添加し、之に藥油を塗りて滑らかに爲さんとを欲せり。一日嫣然微笑、鏡に向つて顏色を覗がひたる折、何故とは知らず卒倒して死しぬ。

吾人は、宣敎師諸君が賣藥の廣告に眩惑せざらんとを希望して止まざるもの也。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

浮き世

田舍のはなたらし、爺に、

とつさあ、アノチ、けふ學校でそういつたんだ、なんでも熱けりや物が大きくなるし、寒けりやちつちやくなるつてほんとにそうだんべイか。

爺、尤もらしく、

ムヽ、そうよ、そうに譯つてるんだ。

はなたらし、

それじや、とつさあおらあ分つたア。

爺

アンダ、あにが分つたんだ?

はなたらし、

ナアムそウナア、いつか寒い晩、おらが家の爐の傍のそだがてい火でつけいかばになつたと思つたら、あしたの朝、向ふの孫えむおちさんとこで、畑へそだが積んで行つたんが夕部の中に小さくなつたつて云わつしけが、矢張りその理屈だんべナ。

雜錄

天地の美（修身科問題）

前號に掲げたる明治女學校修身科の問を等しく、一時間に三つの問を與へたるものヽ一は、左の如し。

山と水と、空の景色と野の花と、春と秋と朝の景色と夕暮と、何れか美しき、共に美しとせば、其思分がたき心の感を記せ。

本科三年生（高等小學卒業後二年と四ヶ月修學の人）が之に答へたるものヽ五つ六つを掲げ示さんに、

（其一）

山と水とは分ち難し、何如なれば山は嚴として天に聳え之に登らんとて一步を出せば一步を出す每に人間の住む所ろ下にある如く己れが此汚れたる世に吟行しつゝ墜れ又は宵など云へるものに迷ひたりしとを明らかに手に取る如く見、一步を出し登る每に天の清き住ひに行く心持せらる、山を下ると雖ども己に勝りたる何か大ひなる人と談話を試み新智識を得て歸りたる心地し暫時茫然として世の總て小さき名譽などを忘

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

れ我乍ら心馥郁として香を發つに似たり。又水に臨めば己の形の水に映るを見て心迄も映れる如く汚れたる心に恥ち何となく心中を洗ひ去られし如く思はる、故に山と水とは思ひ別け難し。空の景色は夕方は特に好く何種の色を含みてあるか分らぬほどに中には赤青緑など種々美なれども只茫漠として思のみ積り確定するとを得ず、野の花は少し曇りたる日などに出でゝ見れば我庭に矯め造りたる花よりも何となく心奥床しく天然の儘に發達するを見る、又天の緻密なる奥底知れぬ愛の色となり香となりて現はれ天然の美を知らしむ、故に空よりは野の花を美とす。春は何事も心晴れて美なり、秋は幽に靜にて木々の葉の落る様など見れば物かなし、然れども葉の落又新らしき青葉出づと思へば樂し、但し美の上にては春の方よし。朝景色は朝早く起出で東を望めば日光キラ〳〵として未だ人の働かざるに先だち早や上りて働きの先駈を爲し、又夕に至れば農夫の肩に鍬をかつぎ早や一日の仕事を仕舞ひ畠の小路を歸り行く比ろ烏のねぐらに歸らんとて空に飛び行く様など心に盡きぬ樂あり、朝も夕も景色は美なれども働きを仕舞ひ謹んで之を眺むれば夕方の景色更に佳し（さ、さ）。

（其　二）

水の大ひなるを見れば自づから心廣くなりて清々とすれども深山を見る時は自づから心沈着て天の意味深きを感じ、限りなき空の景色を見れば天然の恵の限りなきを悦こび、野の花を見れば斯く雜草にすら其恵の行渡りて無益とならざるを思ひ、春は自づから時の適宜を得て加ふるに櫻梅諸花の開きて我等を樂しましめ、秋は物哀くして吹く風も我身に變りて感ずる折から小さき花などの咲きて我等を慰さめ、朝の景色は之よりして夕べに至る迄で正しきを行へよと云へる如く風も靜かに太陽は輝々として四方を照らし、夕は之よりして我等は暫時夜の如きものあるに關せず若し耐忍せば朝の美しき光線を得ると云ふの意を示し、一として美ならずと云ふものなし、故に我は何れを美ならずとし何れを美なりと云ふと能わず。（な、ひ）。

（其　三）

皆一つも好まざるはなし、併し中にても殊に好むは山の嶺そびゆる如きと、空の麗はしきと、野の花の可愛らしきと、靜かに淋しき秋と、朝又夕の景色とにして、此等を、一々說明

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するは甚だ難し。(し、や)。

(其 四)

山に登る時は何となく心より色々の觀念を放棄せられたる如く心爽快にて實に塵界を離たる心地す故に之を愛す、又水の漫々として流きを望めば心靜かにして又其溪間より流るゝ清泉の聲を聽くときなどは殊に心も清まりし樣な感じする者ゆゑ殊に之を愛し郷里にありしときは一週に一度づゝは是非遊びて程遠からぬ處の小瀧のある山中に姉妹と行しことあり、又空の景色は只晴々としたる時は心爽快なりしと思ふのみにて是迄何とも感ぜしことなく、野の花は愛らしくして之を摘み又は根引して家に持ち歸り樂しみし事も時々ありたりし、此の三日前にはからず窓の下にありて空の清く澄み渡りしを望み何となく此の天の美くしくて廣大深遠なるとを感じ覺へず神の御心の計り知られぬるを戒る友と話しことあり、又春は郷里にありし時は愛せしも出京せしより何となく不好秋は殊に之を從來と異なるとおく好みし也、然ども之をよく考ふれば考ふる程春は春の美なること草木の新芽を生じ又たは萬花の花咲くなど實に飾れり盡せりの美をあつめらるゝ候と雖も明春はいかにや今年迄は秋の方を好む樣に感じぬ是また天地美妙なる變化を免らざる故ならん秋は心も清爽なる樣に感じ殊に種々の感情起りて樂し秋は就中月夜を愛す、朝は太陽朗かなる顏を地平線上に現す頃におたりまばゆく輝きて實に其嚴肅壯大なるを愛す、夕暮は何となく物靜かなるにより之を愛す以上皆何れ其分ち難く愛すれども只春秋の問題に對しては秋を愛すと答ふ。(は、み)。

(其 五)

山と水とは、山の方心靜に考へること出來よろし。空のけしきと野の花とは、空のけしきの方廣々としてよろし、春と秋とは、秋の方心落付き自らを省みること深き樣にしてよろし。朝景色と夕暮、これはいづれも好み候朝早くの景色は心をして清からしめ夕暮は故郷や人を思ふの心切に相成りいづれもよろし。(さ、す)

米國女子大學の秀才

○○○○○○○○○○婦人世界大紀念の年なり、とパル、マウル、ガゼット新聞の記者が評したる年(一八九〇)は早くも去年となりぬ。ヒッツ

パ、フォーセット女史、マルガレット、アルホアード女史、ハンナ、レア、リード女史を初めとし、昨年斗り、女子大學より一時に多くの秀才を出したる例し嘗てあらず。

然るに、本年も亦た之に劣らず、去四月迄に業を卒へて名高き譽れを得たる人、又は當年内に一層高等の學位を受領したる秀才など、實に左の如く多し。(因に云ふ、去年の大學女秀才一覽表は、本誌第二百二十七號に見ゆ)

(一) マウント、ホリヨーク女子大學の心理學及倫理學教授たりしマリエッタ、カイス孃(Marietta kies)は、ミシガン大學の學位試驗に及第し、哲學博士(PH.D.)となりぬ此大學にて女性に此學位を授けしは之を最初とす。女史は今后カリフホーニア州、ミルス大學の教授となるべし。

(二) エール大學の百九十一年回開校式の節、學勳ある人々に例の如く學位を呈送せしが、此時コンチクチカット州ニウヘブンのジヨセフヒン、ル井ス(J Lewis)孃に美學士(B.F.A) の位を贈りぬ。此校にて此學位を贈りしは此度にて第二回あり、而して女姓に寄せたるは此を最初とす。

(三) コロムビアのバーナルド、大學にて、エリサベス、パーチー孃(miss E. Barney)に技藝學士を(M. A.)、アチー、レーランドバルバー孃(miss Annie. Barber)に技藝學士及び哲學博士の位を贈りぬ。

(四) 紐育市大學にて四年前より師範校附屬の名を以て教育分科大學を措きぬ、此に婦人の顧問委員ありて尠らぬ助力を受たり、此分科大學にて今年初めて教育學士(PD.M.)教育博士(PD.D)の學位を授與したるが、此は教育學史中にも初めて聞く珍らしき事なり、此時教育學士の位を受たる十一人の中に印度婦人メレー、イー、イートー(Mary E. Eato) 女史あり、又教育博士の位は、紐育のエミリー、アイ、コナント女史(Emily I. Conant.)にニウトウンのハルリエット、イー、ハント(H. E. Hunt)女史に贈られたり。

(五) ペンシルバニアの大學にては、近く數年間、女生、男子同樣の資格を受たしと迫り居るとなるが、本年は、生物學並に音樂の二科にて各五名の女生にて撿定狀を贈り、又エムマ、バーシニア、ブーン孃(E.Y.Boone)に科學士の位を授けたり。

(六) ゲッチスバークに在るペンシルバニア、カーレーチ。

ミッドルトーンのウェスレアン大學。カーリスリーのヂッキンソン、カーレーヂ。メイン州大學。ベルモント大學。ハノーバーの農大學。メインのベーツス大學。以上七つの大學は皆な男女共合の大學なれども、生徒の數は概して男子の方多し、然るに本年の成績に依れば、賞を受けたるもの又は高點に達したるものは、女生の方を多しとなす。

本年米國に於ける女子教育の實況大略斯の如し。諸ふに今后年々此の勢はひにして、而して其勢力は年と俱に愈よ隆大ならんとす。本邦の姉妹諸子願はくは奮發興起せよ。

次號には、亞米利加に於ける最近の女學を記載せんとす。

兒藍

小公子。

第九回（甲）

若松しづ子

日を經るに隨がつて、ドリンコート城主は、可笑そうな笑ひ顏をなさる折が幾度も有升た。そして、孫息子と追々親まれる程、其笑顏を爲さるのが度々になるので、終には、其苦澁そうなのが殆んど失た時も有升た。フォントルロイ殿が現はれ出る前には、老侯は己の淋しさと、痛風症と、七十才といふ年齡とにいとゞ倦みはてゝ居られたとは疑ふ可くも有ませんかつた。一生、歡樂と放蕩を盡したるものが、壯麗を極めた屋敷の中に、片足を足臺に支へながら、一人坐つて居て、癇癪を起し、ヂリ〳〵して居る給仕どもに怒鳴りつけるより外心遣りがないといふのでは、余り面白くは有ませんかつたでせう。老侯は流石、愚かでない心に、僕婢どもが自分を見るとさへ厭がるほど嫌つて居るといふことを、能く知つて居られました。又人によつては、特別に老侯の誰にも斟酌のない刺衝的な、鋭どい物言を面白がる者も有升たが、大概、來客といへば、自分を愛して來るのでないといふことをも承知して居られ升た。壯健で有つた間だは心の樂みは得られぬながら、人には遊興を見せて、此處、彼處と見物して步かれ升たが、漸に病を覺へ始めてからは、何事も懶くなつて、書籍と、新聞紙と、煙管とを合手に、ドリンコート城へ閉ぢ籠られる樣になり升た。併し讀物するにも厭倦があり、段々物事がうるさく、殊にあつて來升た。晝夜のいかにも長々敷のに倦み果て我慢

はます〲募り、癇癖はいよ〲烈敷なる斗りでした。とふいふ處へ、フォントルロイが來たので、侯爵は一眼見る、直と氣に入ました。一躰、高慢氣のある老人に、かく非常に氣に入たと云のは、此息子の爲に何よりの幸福でした。若しセドリックの容色が醜かつた者ならば、他の事には其まゝで有ても、一途に嫌つてしまつて、其美質などは、一向心にお留にならなかつたかも計られません。併し、老侯は、セドリックを見るに付け、容姿の美しく精神の奇拔な所が、ドリンコートの血統と格式とにとつて殊更面目と思はれ、至極滿足されたのでした。それから又、子供の話す處を聞くと、自分の新たに得た格式の辨別などは一切ない樣でも、心に持た品は又格別で、其おどけなさが却つて、可愛いく、これまで慵うく計り見へた世の中が、どふやら面白くも思われて來升た。ヒッキンスの難を救ふとにさへ、態と子供に其權を與へたのは又一つの興味でした。御前はヒッキンスの貧困な有樣に對して、惻隱の心をお發しなされたのではさら〲なく、とふいふとで孫息子が小民どもに評判され、子供の中から小作人どもの人望を得るで有うといふとが、一寸其お氣に叶つたのでした。それに又、セドリックと同車で、禮拜堂へ行れた時分に、待設けた人々の騷と心入れを見て、一層滿足に思われ升た。老侯は群集の人々が、定めて、子供の容色のとから身躰の倔強なと、嚴然とした風采のと、目鼻立の尋常なと、頭髮の美事なとおどに付て評し合でわらふと想ふて居られましたが、果してある女が小聲で「ほんとうに、頭から足の先まで、どつからどこまで、華族さまだ」と言ふのを小耳に挿まれました。此ドリンコート城主は全躰、傲慢な老人で、門閥や、格式が容易ならぬ誇の種でしたから、彌よドリンコート家に其尊嚴なる爵位にふさわしい世繼が出來たのを、世に公にするのが非常に愉快あのでした。新らしい小馬を試した朝などは、老侯は殆ど持病の煩悶を忘れるほど悦こばれ升た。馬丁が其美事な駿馬を旭の映す庭先へ引出し升たが馬は、艶々した栗色の頸を弓形にし、美しい頭を擡て居升た、老侯は書齋の窓の開た處へ坐て、フォントルロイが始ての馬術の稽古を、御覽じて入しやい升た。子供が始て馬乘の稽古をする時分には、こわがるのが常でしたから、フォントルロイも卑怯な氣質を見せるかと危んで居れ升た。然るにフォントルロイは、大悦て、是に跨り抑も馬に乘つたは是が始めてゞしたから、大得意な威勢でした。馬丁のウォルキンスは、馬の轡を採て書齋の窓の前を、幾度となく徘徊し升

た〇稽古も終つて、廐に歸り升た時、ウィルキンスが、ニコ〲しながら、人にこふいつて話し升た、

中々氣立の好い奴よ、ムー、子供だつて、わんるのヲ、乘せるなわ、わきやないわ、成人だつて始めてなしわ、稽付なんかわんなもんよ、奴がこふ云ふんだ、ナアおれに、「ウィルキンスや、僕、これで眞直ぐかへ、アノ、馬鹿じや、みんな眞直ぐに、シヤンと乘つてるからネ」つてぶふのよ、それから、おれが「若様、眞直ですよ、矢の様に眞直ぐに乘つて入つしやる」つていつこ遣つたら、えらく嬉しがつこナ、笑ひながら「そうかい若し眞直ぐでなかつたら、そういつておくれよ、ウィルキンス」ていふのよ。

併し、鞍の上で眞直ぐだといふとき、手綱を持たれて、あちらこちらと歩かせられる計りでは、もはや滿足の出來ない樣になつこ、窓から眺めてゐるお祖父さんにこふ云ひ升た、

お祖父さんこんど一人で乘つちや、いけませんか？そうして、も少し早く歩かせても好ですか？、アノ五丁目の兒は、トツ〲〲つこ速乘をしたり、それから、又ほんとうに駈させたりし升たもの。

貴様、モウさう出來ると思ふのか？」

僕、やつて見度んです。

御前は、ウィルキンスに、手眞似で、何か云ひ付なさると、ウィルキンスは心得て、自分の馬を引出し、是に乘つて、フオントルロイの小馬の手綱を持ち升た、老侯は、

サア、驅乘を一ツ遣つて見い！。

これから、暫らくの間は、此小さい馬乘も一所懸命でした。驅乘をするのは、たゞ靜かに歩かせるとは違つて、中〲容易くは行きませんかつた。そして、馬の足が早くなれば、早くなるほど、段々と六敷るつて來升た。息を切〲ウィルキンスに、

ず……ずい分……ゆ……ゆれるよネイ、そ……そうじやないかへ？お……おまへはゆ……ゆれやしないかへ？、

といひ升と、ウィルキンスが、

若様、ナニ直つき慣れつちまい升よ、鐙へ足をシツカリ掛けて、チヤントしてゐて御覧なさい。

僕始……始終、そ……そうやつてるんだよ。

フオントルロイは、ゆすぶられたり、上られたり、落されたりしながら餘り、心地好さそうでもなく、もまれてゐ升た。默

は切れ、顔は赤くなり升たが、一處懸命に摑まつて、なる丈、シヤンとする樣にして居升た。老侯は、遥か向ふから、其樣子を瞥見して居られ升たが、兩人の馬乘りが暫時、木隱れに見えなくなつて、そして又、聲の達しる程間近へ歸つて來升た時、フォントルロイの帽子は無くなつて居て、頬は罌粟の花の樣に眞赤で、唇をキツト結んで居升たが、まだ元氣よく、樂乘をつゞけて居升た。お祖父さんは、

一寸、待て、貴樣は帽子をどふした？

ヴィルキンスは、自分の帽子に手をつけて、禮を表し、面白そうに、

先程落ましたが、手前が拾ひ擧げる暇もない程で、御座り升た、

老侯は冷淡に、

餘りこわがる方ではない樣だな、どふだ？。

御前、どふいたし升て、そんなことはちつとも御存じない樣です、手前も、これまで隨分若樣方に馬乘のお稽古を申したことが有升が、此若樣みた樣にきつくつて、一處懸命なは始めてです、

侯爵は、フォントルロイに向ひ、

どうだ、くたびれたか？、モウ降り度か？。

若樣は快濶に、有のまゝを、

アノ、中々思つたよりか、ゆすぶれるんです、そうして、ちつとはくたびれるけど、また降り度くはないの、僕、早くおぼへ度んですもの、僕、息の切れるのが直ると、あの帽子を拾ひに行つて來升よ。

たとひ世に如才ないといふ如才ない人が、フォントルロイの擧動に抜目なく眼をつけて居られた老侯の氣に入る樣にと、フォントルロイに入智慧をした處が、迚もこふ甘く成効する策を授るとは出來なかつたでせう。小馬が、再び早足に並木の方へ曲つて行升た時、猛しい老侯のお顔は、渕すら、赤なり、フツソリした眉の下の兩眼は、世を味氣なく觀じた御前が殆も心に覺やうとも思さなかつた愉快の爲に、さえ〴〵として居升た。扨、今か〳〵と待々れた蹄の音が、再び聞て、兩人の顔が現れ升た時には、馬は前よりか余程足を早めて居升た。フォントルロイは帽子を脱で居て、ウィルキンスが之を手に持て居升た。其双の頬は、前よりも紅に、其頭髮は耳の邊に飛散

て居升たが、馬を勢よく走らせて來升た。手綱を扣へて、馬を下やうといふ時、フォントルロイはまた、息を切つて、ソツー僕とう〳〵騎させて來たでせう、僕、アノ五丁目の兒の様に、甘くはないけど、騎させたことはかけさせて、そうして、僕、おつことちやしなかつたもの。

批評

○女鑑　　斯論子

去八月八日東京國光社より「女鑑」と云へる雜誌の第一號を發兌す。記者久しく山中にあり、之を見たしとて求めたれど得ず、此頃に至りて初めて手に入り一覽したり。

「國光」に併屬する女の雜誌なれば、主意とする所ろは謂はずして知るべし。何れの社會にも改進と保守との二氣質あり、而して此の氣質は爲事爲業の上に現はれ、互ひに馳きて功を奏するものゆへ、強いて其短所をのみ言ふべきにあらず。然れど、其功を爲すに時期あり、後れば世に出でゝ彼此と言ふときは、反つて國家の大計を誤まるものなり。女鑑は何故鹿鳴館の燈火明らかなりし比ろ、又は各女學校の英學熱のみ熾んなりし比ろには出でず、保守の氣運極端に走り、今や反つて其荼毒を流しつゝあるの時節に初めて生れたるぞ。其遅かりしを惜しむと共に、前途の最早短かきことを歎く。吾人は或る意義に於ては保守者たり、「女鑑」が其發行の主旨に列舉したる時弊の多數に對しては、同じく少からぬ憤慨を爲すものなり。然れど、何處の宣教師派學校にても國文を多くし、今は反つて其反動に極せんとするの現況に際しては、吾人は寧ろ熱度の改進論者たらんことを欲す。「女鑑」もし應ずとせば、些少お相手いたすべし。

男女同權、女子獨立などの說に向つて猛けき攻擊を與へんとの豫告見ゆ。もし人間として男女を同權なりとし、精神上に於て女子に獨立を獎むるなどの主意を目して、所謂る同權說獨立說なりとせば、かゝる眞理に向つて矛を擬するは笑ふべきことなり。若又た政治上、婚姻上などの主旨によりて同權、獨立を主張するものに向つて、之を討たんとすと云はゞ、今や新たに「女鑑」記者を勞する迄もなし、「女學雜誌」は數年來すでにかゝる僻說を打破し去りたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○史海の第四號　漁泉子

此號は女學の爲に大ひに氣焔を吐くものか、内庭に於ける藤原三千代が勢力を寫して、女丈夫の伎倆凡ならぬ證跡を擧げたり。

○心の露、一名、法涙のしたゝり　是空子

此は佛門の女弟子井上瑞枝女史が、亡き友瀧川嵩子の紀念にとて、佛敎の大意並びに信徒當然の心得方などを記したるものなり。蓋し其友と日頃共に語らひし事を思ひ念せて綴りしものと云へり。昔しは、女性にて佛理を明らめ名高き文を著わしたる人も罕わなれど、近頃に至り斯る著作を爲したるは之を初めとなす。其の佛敎の理を說くところ、未だ之を精しと云ふと能わず、之を泰西の哲理に照らすところ、未だ全く誤りなしと云ふと能わず。然れども、言ふところ眞實にして、多く肺肝より出で、文章典雅にして能く女文の躰を得たるは、此の書の秀所なりとす。宗敎を弘通せんには必らず婦女子の手を假らざる可らず、而して婦女子の手を假らんには、之を優待するの說なかる可らず。若し佛敎は此に思ひ至らざりしが、近頃の佛敎會は大ひに之を改ためたるものゝ如し。佛說の何如んは之を問ふを休めよ、實際女性を重んずるに至らば、斯道の幸福なりと謂つべし。故に、佛門にいよ／＼多く此女史の如き人出で、其人々の手にます／＼多く斯る著書の成んとを希望す。

○自由基督敎

宇宙神敎（ユニヴヲルサリスト）敎會の機關として發兌せる。其會の意見を知るに都合好きものあり、躰裁は基督敎新聞に似たり、主義目的として發表したるものゝ一ヶ條に、女子敎育を重んずるの項あり。

○新日本史を讀む　雲峯生

人物の如何を論ぜんと欲せば先づ其境遇位置を知らざる可からず、著書の是非を評せんとならば宜しく其時代性質を究めざる可からず、蓋し人物の大小善惡と著書の難易輕重に寧ろ比較的に云ふの語にして絶對明に非ればなり。新日本史一度世に出で、評批多出、毀譽百端、津々浦々に至る迄少しく史眼を有する者は是非してやます、余亦一言せんと欲す、抑歷史なるものは雜駁紛然たる社會の出來事を整々歷々と見るが如くに寫さゞる可からず、然れども數百十年を經たる過去の時代を寫すが如きは易々たるのみ、蓋し精細複雜の事實は多く今人の記憶に存せす、著名の事、顯然たる事實のみ僅かに記錄に存す、之を取捨綜合す

る甚だ難きに非ず、然れども當代の人が實際に目撃せる當代の事實を記入するに至つては恰かも渦まく怒濤の間に回轉せられつゝ其怒濤の實狀を寫さんとするが如し、凡人庸手は能はず、衆を凌ぎ、他に擢ずるの眼孔あり、社會の水平線上に頭角を出して觀察するの識見あるものにあらずんば能はず、是今日に於て新日本史を編むの難き所以の一なり。泰西の如き文明の國に在ては著述記錄の如きもの甚だ多く一時代の歷史を編まんと欲ば其材料に乏しからず、然れども我國に於ては智識甚だ少し、試みに廿个年の昔に遡り、維新前後の事を人に問へ、平常史談を嗜々するの徒と雖も知る所淺淺なるのみ、況んや普通一般の人に於てをや、是編に記錄著作に乏しきが爲ならずや、是今日に於て新日本史を編むの難き所以の二なり。吾嘗て我國の歷史なるものは單に事實を列記せしに過ぎず、泰西の歷史の完備せる鉄鉞に比して欠くる所多し、即ち我國には未だ歷史眼を備ふる者あるなし、外史は正しく鉄鉞を得たるに近しと雖ども未だ以て是れとすべからず、此時に於て泰西の史家に因り、其鉄鉞を擬し、此に完全なる歷史を編む亦甚だ易からず、是等の困難あるに係らず、竹越氏は時勢を以て時勢を察し、呼吸を積みく材料を集め、疎漏大手以て新日本史の大著をなせり、誠に是當代第一の好著、余は我國に於て完全な史眼を備へたるもの、嚆矢と思ふ、加ふるに當代の記者なり、思索く著者に關する所なくして可ならんや、余は新日本の爲めに大に謝すくと大いに著者が罪非論評の富者品評に至つては既に判斷するを得ず、故に此評者が評ふ如く謬譚は多少あらん、偏見はあらん、偏頗なるの點もあらん、余はこれを認む、然れども時代と此書の性質を考ふれば其欠點を誇大に言ひなして著者の功績を沒するに忍びんや、古來東西の歷史一部として欠點なきはあらず、されど欠點あるは當然の事なり、完全のものに至つては只理想に存すべきのみ、而して著者をして動て之に近からしめんとすべきのみ今や此に満足す、偶ま此書に接し、欣いに堪へず、偶々一讀、聊か言をなす事爾り、何れは徐ふに他日に於はん。

○次號より

此欄內に「新ふ一覽」を掲げ、新らしき新聞雜誌中の尤とも目を注ぐべきもの、要領を示さんとす。

隨感

筆のしづく

劍峯生

○御書大智度論に。設滿世界寶。無有直身命。又一切寶中人命第一。爲命求財。不爲財求命と。耶蘇聖經にも人若し全世界を得るとも其生命を失はゞ何の益あらんやまた人何を以て其生命に易んやといへり。

諸々たる天下志士を以て任ずるもの、中果して此語を解するもの幾人かある。

○昨雨催開花、今雨催落花、昨日親愛、今日仇、人間萬事總似花。

咲くといふも雨なれや散らすといふも雨なれや咲き散りてまた咲く花や雨を仇とや情とや

賢人出處之如此乎

○一齋曰、畏死者、生後之情也、有軀殼而後有是情、不畏死者、生前之性也、離軀殼而始見是性、人須自得不畏死之理於畏死之中、庶乎復性焉。

人々死を思ふて死に處を得たる者こそ眞の人たるを得べし

家政

書生して知る親の恩　　山下石翁

食客を置く家の夫人に告ぐ

女の子は父を好き、男の子は母に頼ると云へど、此は親子の間だのみにあらず、男女兩性の關係は總じて然り、例せば書生を置きて之を養ふにも亦た此の理はりあるを見るなり。

女の書生を置くときは、家の主人特に氣を注ぐべし、男書生を置くときは、夫人たるもの極めて信切に之を遇せずんばある可らず。郷關を出で、都に苦學する書生は、寄留せる家の夫人を第二の母と思へり、其持なし方信切ならば一生忘れがたし、况してや當年は之が爲めに刻苦黽勉し、苦學の苦をも耐忍びて餘りあらん、悲しひ哉、多くの夫人は書生を愛するの樂しみを覺らず、之を冷遇して他年の英雄を恨死せしむると多し、左に掲ぐるは或る書生の投書にして實際の苦を訴たへたるものなり。

上野公園美術陳列館のなゝめ向ひなる鬱々たる木の下に、青原落葉を褥として徒然な兩手に支へ、仰臥しなる二人の書生、年はいづれも十七八なるべし。顏色黑けれども柔和の相あり。

甲「嗚呼も一些から歸らんならんなー、赤無形の束縛の下に……君、々、々、何に考へちよるんだ。

乙「う一寸合計さ……あー僕かあ實に思ふなー國の事を、國でどこか遊びに行くさか又は觀見などに行きさでも、錢などは持たうさは思はぬ、亦くれもしない、只大きく握り固めたむすび四つ五つ、中には梅干より外にはない、が、しかしそれで決して不滿足なとたーない、快ろよく遊び、樂しく見、うまく食ひ、谷川の水を甘露さたゝへ、木の枝をかざして傘さ戯れ、終日心中一點の心配もなく、大滿足大快樂を盡して歸る。いよ／＼まじめになりて

內に歸れば、まち居る慈母の汲む湯に、足を洗ひ、上りて夕飯を食べるさき、其池景色快樂を語りつゝ、慈母の口邊を動かして僕のうまそうに食うのを喜び玉ふに尙一層のうまきを覺へ、麥飯なれどもすしよりうまく、里芋のにつけなれど鴨なべに勝るを覺ゆ、煙草くゆらしつゝ閑居玉ふ父の微笑を得て、實に快ろよく寢に就く……。しかし、其見し處の景色さして絕佳なるかさ云ふに、是尋常一樣の風色のみ、然らば行に便なりやさ云ふに雖にあらざれば行く不能、珍味佳肴の待つに非れば、金あれども麥飯、粟飯、尙は得るに苦しむ有樣なり、しかして尙如此の大快樂を得如此の大滿足を得らるゝと、全く嚴父慈母の深き愛中にある故さ思ふ。之に反して、上野淺草公園さいへば知らざるの人なく、裡には天地間の諸物をあつめし博物館あれば、世界に生存の各動物を數多く園中にをさめたる動物園あり、或は都下高大家の庭になれる諸國或は名地戰爭を寫し出したる愉快なるぱのらま、蓄音器、十二階、一さして目を眩まし心を天外に飛ばせないものはない、鐵道馬車、人力車は僅か數錢にて遠く走り、蕎麥屋、牛肉屋はやすくして美味を供す、實に君一さして自由でないゝないじやないかれー尙其上に、いたゞいて來た小遣は、國に於ける二日分旅費さ等しきくらいだのに、何ぜ國よりも快樂がうすい、何ぜ終日心中一點の心配ないさ云ふとが出來ないか、只奥樣の御心一つだ、第二のまざーさ思はにやならぬ、其奥樣の御心如何だ、眞愛なき……眞愛なき內は生息すれば、假令如何なる景色に遊ぶさも、如何なる珍奇の物を見るさても、快さ思ふは只一時、面白さ思ふは其一分間のみ、今より歸れば、三里の道於ずいぶんくたびれるが、しかし少しもやすむわけには行かぬ、そら郵便だ、そらお使ださて、外に行く人のないではないのに……、翌日でもすむべき事も……、道の遠き處迄行

一五

かせらる丶……の成行一日樂んだからさて、僕がー實に殘念だと思ふとき
がある、再生して初めて知る親の恩だ、嗚呼實父は早く黄泉の客となり、慈
母は已に霜雪をいたゞひて寒屋に殘る、他年鞠育の恩を報ゆるは、それ何の
日か……

山寺夜半杪鐘鉛　　下山乃歩風雨聲

甲「實にそうだな、お上の階刻のひざき上に、奥様の……………僕がー、實に切
齒扼腕するときがある、僕がそら、こないだ大蔵を買いに行つたされー、
實に僕がー國に歸ろーかと思つた奥様が丸いのだ間違ちやいけないと仰やる
から再三附正して買て來れば……、日はくわん／＼照りつけるのに、車に
も乗ろとが出來ず、あの大きな重いやつを背中にかついで十里の道を歸つて
お目にかけりや、お上は四角いのださて、何ぼの年になつて使をよくすると
が出來ないのだ、よく聞て行がいゝなど、横に奥様はいらつしやるのに、一
言も御自身の間違はなつしやらない、默つて煙草ども吹かしていらつしやる
のだ、僕がー、僕がー、大概の事なら自身に罪を負うけれど、あんまりださ
思つたから、奥様がさ云ふや否、奥様がいうたて已に買はなきや貴様が悪い
んだて……、實に僕は、如何に獨立の貴さかを思ふけれど、猶も僕も不爲
の兒、慈母は遠く百里の外、山川相隔てゝ見る不能、膝下に侍して愛育の万
分一を報ずるは、嗚呼、幾年後なる哉……僕等一層奮勵せにやならない
ねー
しかしこれも、神の御攝理にて、僕等に賜ふ試煉だと思ふ、凡ての物我によ
からざるなしだ、他日僕等若しあな母、書生下婢等のある樣になつたら、其
ときは必ず今の苦を忘れずしてねー君、

乙「は……、が、しかし、實にそうだ、今受ける苦しみは、他日僕等が他人
に對して、如何に為すべきかを教ゆる教師だ、一苦一樂にて人をして敬愛せ
しむるとも出來れば、嫌惡せしむるとも出來る。

聲高らかに、
我有千鈞髮。　錚々照於梁。　我有一寸心。　皓々白於雪。　我髮猶可斷。
我心不可説。

再び、
曹子伯蝌供孝純、今以奄杜追其人、他日臨化許屍去、明時代名於世也。
僕がー、東京に來て得たもんは、親の愛を知つたことと、世の人情を知つた
ことつだ。
サ歸ろ／＼。

小説

流れの箏。（四節）響（下）

是空子

口惜し氣に見反り／＼出る應を、知空は、恐れ氣もなく拔と信切なる態にて門迄送り行き、座に泣れたる肩をそと掃ひて、痛みなきやと氣遣ひ、心配りして半天を靜かに着せ、氣の毒と思ふ心を瞎にして、別れて楼側に復る。

キロ／＼しつゝ、廊路を出で行く影を睨み、疑堂は口を緘して開かず。疑堂の口を開かざる間は、空也は打案じて物言はず、知空は打守りて切りに愛ひ顔するを常とす。僅かに窓石の頂を照したる夕影は、一段退ぞきて窓の上半身に映じ、更に退て窓の彼方に沒る、漸く暮て人皆坐し、院内總て音なし。僅かに起る喃々喃々の聲は、一日の別離を恨みて早天八方に飛出でたる雀の群、夕暮の閑暇に今日の出來事を語り合ひ、喧しき迄に囀じて共に樂しむものゝ如し。

疑堂も亦た口を開き、
「實に仕方の無いものです、あゝいふ人物は。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

　困つてしまいますよ。

と、彼の類枯れ骨露はれたる老僧は、咳を拂ひつゝ應へたり。知空はいそ〳〵として談話の緒の解けたるを喜こぶ、わが最とも愛する所ろの疑堂兄が少しにても心地の快潤ならんとするを見、吾最とも敬する所ろの師の坊が談話敵を得て暫らくにても興じ玉ふを見、身に千万金の寶を獲、万づの願事一時に叶ひたる樣の心地したり。立つて厨に行き、番茶を好き加減に入れ、微笑みつゝ携さへ來れる頃は、談話すでに酣なりき。疑堂は容易く口を開かず、然れど一旦故ありて之を開くときは、江河の决するが如く滔々として奔流す。空也は、蠢爾狐疑して吶々するを常とすれど、端然肅坐して何事かの論理を談ずるに至れば、枯れたる聲やうやく整のひ、音調意外の勢力を得來るなり。此時の景色を見て、知空はすでに談論の熟したるとを察し、例の如く砂糖湯を師に献ぜんとて、再たび厨に行く。

疑堂は一瞥して見送り、

たとへば、彼の子と較べて御覧なさい、如何にも無邪氣で、潔白で、人の爲に何事でも仕ようと云ふ美質は、何んと言つても美質に相違ないでは無いか、此美質の美なるとも、厭の嫌ふべき性質も實は同じとであるとは、思へないです、心理上决して思へないとです。　一七

サ、その思へないと云ふのは、實は思はないので、其の思はないと云ふのは、元來思はないやうな癖が附たからのとです。そこで何故其癖が附たかと言へば、之は世の中の有樣が左樣したので、若し其有樣が反對の景況であつたならば、癖も亦た反對の癖で、人の思ひやうも今日とは違つて居るでせう、万物初めから斯ふと定つたとはない、ホンノ行掛りから色々になるので、宮殿に落ちて歌よみに賞められる花片も、厠に落ちて土に化する花片も、元は同じ枝に在つたのでせう。

疑堂は面倒なりと云ふ面色にて、言語を短かく切り、

夫が佛敎の間違ひと云ふものです、そんな論法で論じたら、物事は亂雜です、眞理と云ふものは無くあつて仕舞ます。アナタも僕も同じ元素から出來たとしませう、夫でもアナタと僕とは同じものだとは言へますまい、若し同じものなら、アナタの頭をなぐつて之は僕のだから構はんと言へま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すか、たとひ元は同じものでも、變遷して違つたものとなつたら即はち違つたものじやありませんか。行掛りから色々になると御言ひだが、色々になつたら色々でせう、一つ色ではありますまい。厠に落ちたとて、宮殿に落ちたとては決して同じとてないです、非常の相違です。相違ならば相違したものと見なければ成らんです。其初めが同じだからと言へば、何んでも同じとです、亦何んでも同じなら、同じと言ふとも言へません。さう云ふ議論に、初と終と、大躰と一部分とを混同した議論です。佛教の理窟はいつでも夫です。

ちと入組で煙に捲かれたるか、煙草を一服して、ホット吐き、ちつと落付きて、少し笑ひ、

イヤ、丸で同じものだと言ふのでは有ません、固より違つたものだと見るのです。ダが、其違つたのも、自分の故では無く、外からの因縁によつて然るもの〻性へ、結果を顯れて、一視同仁に待せねば成らぬと言ふの主旨です。

夫でも好んです。成程、外から影響されて色々になるともあらうが、人はたゞ影響を受るのみでなく、自分の精神から自己の思ひを自發することが出來るです。夫が即はち人たる所ろで、萬物と相違してるのです。アナタ方の議論では、人と萬物とは別に違つたものでないと仰しやるのでせう。人はホンノ外界から影響さる〻許りで、此の影響が無なり、肉躰が無ならば、夫でモウ人と云ふものは無いと言ふのは西洋の唯物説と大抵同じとです。唯物説は今ではダメです、獨逸でさへモウ行はれません。

左樣計りも言はないので、矢張り靈魂が在るとしてゐるのです。

そうでせう、靈魂が在るやうにも數へ、無いやうにも數へ、神のやうなものが在るやうにも數へ、無いやうにも數へ、未來があるやうにも亦無いやうにも、人は萬物の靈長であるやうにも亦無いやうにも數へるのが佛教です。ツマリ、佛教では議論をするのが馬鹿らしいのでせう、議論するうちはまだ佛教の主意に達しないのでせう。どうでも好い、どちらでも善い、何にも分らない、何にも分らないとすれば何にも分つて居ると云ふやうに悟るのが大乘でせう。

まあ、そうです。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ダカラ、僕等には信じられん、迚も眞理を重んずるものや人情を愛するものには信じられないです。熊が金を欲しひと言へば、遣らないと言ふでせう、知空が温和ければ（一寸と横を見る、知空はパット赤らみて下をむく）可愛ひでせう、然るに左樣思ふ人情もホンノ假の幻で、實はどちらでも好いと言ふのは、殆んど無茶です。大乘の佛敎が行はれたら天下國家は亡滅です。たゞ人間は決して如此き說を信ずるとが出來ないから、まだ幸ひです。大乘の說は到底久しく行われないのです。第一、今の坊守が切りに耶蘇敎を防ぐのは何故です、もし大乘の主旨によれば、耶蘇敎の信徒は即はち佛敎徒ではありませんか。何如やうにとも悟つて安心さへすれば、佛となつたのでせう。夫に耶蘇敎は佛敎の敵だなどと言ふ坊守の多いのは、一つは人間の慾でもあらうが、ツマリ大乘のやうな說は人間に信じられない柄です、多くの坊守は矢張り佛敎に凝り固まつて、之許りが眞理だと思つて居るのでせう、人間は眞理と思ふものに凝り固まりたい天性があるのです、どちらでも好いなどと言ふのはウソです、人情の本當な所ろではないです。

空也の枯骨はいよ〳〵花さき、落たる頰は、奧の方にて微笑を呈し、躰自づとくつろぎ、安樂として湯呑を手にす。一喫して、靜かに下に置き、

夫で、アナタは何をお信じなさるのです。耶蘇敎ですか。

迚も信じられません、佛敎も信じられないが、耶蘇敎も分らない。ダガ、今言ふた丈けの事は信じて居るので、夫で何か此上一層信じたいと思ふて居るのです。信じるものが無ければならぬ、又そのものが在ると云ふ丈けは分つて居るのです。たゞ夫は何れかと言ふとが分らないのです。どうも、耶蘇の宣敎師や、佛敎の坊守などに接して、餘り感服しないから、（知空は心配顏す、空也は依然微笑す、）有難くないです。

そう、善いもの許りはありますまいナ、お好な哲學者だつて左樣でせう？、昔しから推尊すべきものが何人あります、定めて極く少ないとでせう！。時に、もう月が上りさうなものだ、知空、今夜は十五夜かい。

イエ、十六夜で御座います、燈はどういたしませう。

左樣サ、……ホンニ、今日あのお婆さんが、お前に張灯を

吳たヂヤないか、アレヲ點て御覽、疑堂さん、今晩はお世話しひのですか。ゆる〳〵お話しいたしましやうか。

それも宜しいでせう。

佛壇の引出しより小き蠟燭を取り出で、付木を割りて煙草盆の灰の後ろの火を掻き、顏を外向けつゝ、燭を點じ、張灯にうつして緩やかに引き張れば、時ならぬ七草消々として茂り、早くも夜の蝶一つ二つを招く、知空は掃ひ須りもせず、そと携さへ行けば、蝶も慕ひて追ゆくなり。踏臺を力に、角の軒下に吊し、

此邊で宜しう御坐いますか。

アヽ、好かろう。

敷石の表てホンノリと微光を受け、累々として青ざめたる人の列ぶに似たり。新佛の燈籠に燈しおけれど、特更白く照りて、美人の細く立つが如し。打驚ろきて羽ばたくは、現に惱の想ひわぶるなるか、虫の聲細く聒かし氣に喞つは、墓所を知りて故人を弔らうの樣なり。天王寺の森の梢毎をひゞかせて、天に一陣の風を走らせ、餘波、軒端を傳ふてフツト燈を消す。

ヂヤ、消た。

イツソ、此まゝで月を待ませう。

三町の廊路を草鞋の足にてたどり、角燈の明しに前途を照らして、敷石の上へ上へと歩む。犬の太たく吠る方をフト照らせば、黑き人の影パツタと地に伏す。怪しみて立ちどまれば犬いよ〳〵吠ゆ。籬根を破る音、人の走る音、犬の更にいよ〳〵吠ゆる聲の裏に埋もれたり。

郵便脚夫は不審みながら門を入る。眞暗なるに舌うちし「コレダモノ」と獨りごちつゝ、椽側近う來れば、ツカ〳〵と知空の斷け出づるに亦た驚天し、

ヲツ、ビツクラした。

大變驚ろくんですヲ。

ナニヲ、今ま門の前にヲカシナ奴が居ツたダ、何でも胡亂な奴サ。ハイ、郵便山田疑堂さん。

知空より受取りたるを、微かにすかし見て、疑堂は不審し、

大山太郎ツ。

表を見て、

僕の宛名だ、宜しい、御苦勞。

寄書

○男尊女卑習慣の近因（下）

以上は上等中等の男子の腦膜を驚醉せしめたる槪略なりとす王朝及び平氏の時に及んで情交の見るべき發達をなせしものは是れ僅かに淸華の一流のみ其中等下等の有樣は之を知るに由なしと雖ども然れども常時外に於ては天慶の亂あり前後十二年の奥羽戰爭あり繽紛擾亂干戈止む時なし果して然らば如何んぞ平和寧靜の男女の交情ありしを想像するを得んや彼の妹背山袖萩等の戲曲を以て直に當時を推論するの人なきにあらずと雖ども是等は作者が巧妙の筆を弄し時を當時に假り德川氏の有樣を抽寫したるものなりと云へば是等の戲曲を悉く事實なりと推論するは大早計と云はざるべからず況んや源氏以後豐臣氏の時に至るまで戰亂紛擾の時に在て焉ぞ平等の交際ありしを思想するを得んや是等の時に在らば下等社會の婦女子は言ふに言はれぬ境遇に在りし者ならんとの外には何等の想像もなし能はざるなり。

下て德川氏起り干戈止み漸次女子の勢力を得る時に垂んとするや恰も貝原宮崎等の諸先輩あり機に乘じて女大學女小學等の諸書を著し儒敎主義を以て婦女子の腦中に吹き込みたり女子の智識の空虛なるを期として之を以て世の婦女子を誘導せり固より是等の書は大方男子の心を領するに足らざる小冊子なれども婦女子の始めて文字を讀む必ず之に賴るの習慣となれりされば先入主となり婦女子は其書中の敎を堅く信じて生涯の規範となせるなり書中「嫁いりするをかへるといふ事」とか「夫は天にたとふ女は地にたとふ」とか「嫁しては舅姑天道なり」とか「男女は席を同しくせず」とか「婦人に七去とて惡しきこと七あり一には夫に順ざる女は去るべし二には子なき女は去るべし三には淫亂なれば去る四には悋氣ふかければ去る五には惡き疾あれば去る六には多言なれば去る七には物を盜む心あれば去る」とか「婦人は別に主君なし夫を主人と思ひ」とか悉く儒敎の誨ならざるはなし以て先に引出せし諸書と異なるなきを見るべし世に彼の「風吹けば沖津白波立田山」の歌を以て貞操柔順の眞婦人となし女小學などにも酷たく之を賞讚して古今の美談と人も之を謂へり然れども余を以て之を見れば唯儒の七去よりして之を論ぜばこそ大に取る所もありしならんのみと思ふなり之を要するに婦人は多く書を讀ます唯僅に是等の書を讀むのみ否東洋には多く婦女の讀書を無用視するのみならず却て有害視す焉ぞ其餘に及ぶを得んや嗚呼是等の小冊子は日本婦女子の腦漿を驚醉せしめたる「クロールホルム」にてありしが淸少納言が「あり難きもの」の部類に於て「しふとにほめらるゝむこ、しふとめにおもはるゝよめのきみ」とあるも千年の前に於て能く東洋の弊を穿ち得たる預言なりと云ふべし。

茲に尙下等社會の習慣上に附き一言すべきとあり天明の頃より諸國に道話と云へると行はれたり是れは下等社會に向て道義心を誘發せしめたるは掩ふべからざる切績なりしと云ども茲に又一の題起したる一箇の弊ありしなり何ぞや婦女取扱方に關すると是れなり余頃日或る人が道話を讀みしを聞くに大に慨歎せるとありしなり其書名も本文も能く知得ざりしは殘念なれども大意に「むつとして歸れば門の柳かな」と云へるとよりして論を起し婦人は其亭主より打たれても敲かれても唯笑顏挨拶すべし笑て對すれば遂には夫を感化せずとは云ひ難し併し不挨拶若くは抗言などするとあれば燧石に鋼鐵火を發させるものはあらじ「柳の枝に雪折れはなし」善も惡も何もかも柳で笑て受よとの意にてありしなり是等は決して不眞の敎誨にはあらざれども又他の一方に在ては婦人に向て無方醉狂の活劇を敎へたるものなり下等婦人の不幸を提起し今日の習慣を作爲したる一起因と評せざるを得ざるなり。

以上余は濛々たる白雲中に於て婦女冷遇の習慣を生じたる起因を槪略ながらも辛ふじて探求し得たるならんと思ふなり白雲の外に於て習慣起因の笑蓉峰を瞥見したるを信ずるなり余に於ては「山重水視疑無路、柳暗花明又一村」の愉快を覺ふなり希くは大方の君子幸に敎ゆる所ありて我國男女卑の弊風を矯生するの一助ともならば余が爲には實に望外の幸福なり。

○小學校の先生

新太郎さん〳〵今朝は大層出席が遲かつたがどふいふ譯ですか。

生徒

ナニデ、けさ外でどろぼうが屯へ引れて行つたつて人がワイ〳〵云つてたんです、そうすると、おつかさんが、アノ、ヒヨツト、とつさまかも知れないから行つて見て來いつて、いつたんです。

時事

○政務部

議會に對する掛引の爲に、內閣に副へて政務部と云へるを新設し、官海の英才を羅して手足とし、平民大臣其の長大頭にならんとすと云へり。種々の批評はありと云へど、今の內閣の爲には、好都合の立案なりと思はる。惜しむべし、議會內之に對するの妙案未だ成定せざるとぞ。

○金

政府との對戰に、第一に困る所ろのものは金なり。金は冷やかなる無情の黃金なりと云へど、万能の効力を有するが故に、之に引付られざるもの至つて世なし。而して、其特に多く引付らるゝ所ろのものは、金なくして能くシャベル所ろの當世才子なるがゆへに、當世才子の民權論はいつしかに官權に化り去るものなり。故に若し政府と愉快なる大戰爭を開かんと欲せば、政府の糧道を絕ちて經費の出所を極めて嚴しく搾り上るを以て一策とし、金に引付らるゝ點の比較的に少なき議、即はち多額納稅者並びに地方豪富の議員などを先列に置き、之に名譽を與ふるの工夫を一の策とす。然るに、豫算論に軟々とし、シャベルとに長者議員に譽れを讓らずは、政府はいつ迄も金の上に於て議員を支配すべし。而して議員が金を欲しがる間は、帝國議會の勢力長久に伸張せず。

○一騎打

堂々正義の辯を揮つて、聽衆の貴婦人を絕倒せしむる程の勇あらば知らず、今の議院戰略は一騎打にあらずして多數政治なるとを覺悟せざる可らず、然るに彼の中立派の郷紳士、もしくは大成會中の長者議員をして、寧ろ大臣と一夕の晩餐を共にしたりとの名譽を得せしむるも、演壇上に五分間の辯を揮ひたりとの名譽を得せしむるとを工夫せざるものは、議院の略に慣るゝものと云ふ可らず。

○略

今の世は一時の略を以て勝敗する世の中となれりけり。誰か堂々として一直進、一大勝するの勇を揮ふものぞ。

○花ガルタ

少しく廢じたりと見ゆる花ガルタ未だ底とに退かず、至つて重やかなるものと聞及びたる學士仲間にすら、恬然として耽

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ぢず弄そび使用するものありと風聞す。賭博の不德なるは、其法律上の罪たるが故のみにあらず、實に高尚なる道德の爲に大罪たる也。若し此の殘虐ならざる輕々潤々の日本人民にして、万事を僥倖をもて決せんとするの氣風更に汎ねく行わるゝに至らば、あゝわが邦家の前途を何如んせん。

○風俗取締

文書に向つて第一取締を嚴にせらるゝは頗ぶる佳し、願わくは、今後更にいよ〳〵用意の八方に密ならんことを。

○マダム、ブラバツキー

神智教會の長、露人ブラバツキー女史の一身に付ては、樣々の評あり、或ひは露政府の間牒なりと云はれ、或は大うそつきなりと云はれ、或は成心なりと云はれたり、其死後一層烈しき論評ありけるが、心理研究會の審査員博士ホヂソン氏が、同會に報告したる所ろによれば、彼女は酒蛙たる大僞欺の人ありとあり。

○契婚の破約

パリにもロンドンにも優りたる第一の事は、亞米利加に於て女性が男子より尊敬せらるゝことなり。亞米利加に於ては、一婦人獨行して何處の僻陬にも安んじて往來することを得とは、合衆國自慢の一つなりき。然るに、歐洲の下等なる移住者追々増加するにつれ、同じ惡風を輸たらして、ワシントン、ニウヨークの市中に於てすら、女性に惡口する卑陋男子出で來れり。之が爲めに神聖なるエンゲージメント(婚姻の約束)を自由に破るもの追々生じ來るとて、近頃の彼國の雜誌には太たく之を慨するの文見ゆるなり。

○禁酒事業

禁酒事業は殆んど女性の手に落ち、世界の男子は瞠若として其成果何如んを窺がひつゝあるものゝ如し、ガツフ、ジエエツト、フヒスク、の如き男性改革家はすでに死去し、今や、禁酒事業は、ウイラード、ソマーセツト、レビツト、ラマバイ、婦人矯風會の會員などの手に落ちたり。

○パアネル氏の婚姻

醜行によりて拭ひ消す可らざる不德の冠を戴きたる、愛蘭の志士パアネル、元のヲ、セア夫人を娶りたる以來、切めてもの最後の贖ひを爲したりとて世人稍や之を賞し、下院に於ても同樣の評判となりぬ、改進黨に於ても少しく之を釋したる

ものゝ如し、然れども、天主教の信徒は此婚姻を正視せず、其式に與らざりしが如く今も倘ほ之を不可とす。

○東京府下諸兵の花柳病

兵員千人に對する病者の比例、年々左の如く減じたりとの報告あり、

十九年	二十年	廿一年	廿二年	廿三年
一四、三四	一四、六五	一三、六七	一三、〇二	一二、五五

○細君女學校

米國ペルクラヒアに三年前開きたるフホルサイス孃が「細君女學校」は、裁縫、料理、洗濯、家政、速記、簿記、出納、床入方などを教授し、專ら家庭に細君を養成するを主旨とし、開校以來總計千六百名の女生あり、一種異樣の計畫なるが故に頗ぶる世上の注目を惹きたれども、今や經濟上の困難により將に閉鎖せんとすと云へり。パッキンハム公園道の公立料理女學校も十年にして初めて基礎固まり、リバプールの同料理女學校も七年にして初めて借財を皆濟したりと云へば、此校も亦今少こしく成立せば大ひに望みあるものとならんか。學校維持の困難なるは、東西正に同じ。

○お轉婆

高等女學校の生徒は、或は教へて良妻たらしむるを得ん、高等女子師範學校の生徒に至りては之を望むと難し、卒業后五年間嫁せずして强力教授に從事すれば也」とは、細川校長の談話なりと傳へたる新聞紙あり、惟ふに此は誤聞なるべし。教授せしむるが故にお轉婆となると云はゞ、女教員を廢するに若かず、女教員を廢せざる可らずとせば先づ女子高等師範學校を廢するに若かず、而して校長となり如此く其自己の教育に不信用ならば、先づ自ら其職を辭するに若かざる也。嗚呼堂々たる政府の女學校に於て、お轉婆を養成するより外に感化力なしと云ふか、何ぞ慨歎に堪へん。然りと雖も此は必ずや誤報なるべし、其の速かに正誤されんとを待つ。

○信任投票

與に信任投票を爲さんとせば、枚を銜んで近づき卒然として發すべし、今日早く囂々として騷ぐは政府の容にあらず、吾人は其の必ず敗れんとを察す。

正當の血統にして身體强壯累代遺傳なきが家族の不幸により將來に養育なし能はざる處へ
貰女に遣はしたき去年五月生の女子あり。駒込西片町十番地ろ六號青木方へ申越さるべし

通信

あい子編

●廣島縣通信

縣下女子教育の狀況は一般に不振の狀態にてありしが、昨年頃より稍其熱度を增め、二三の私立女學校の如きも改革の緒を開けり、從學生徒も少しは其數を增せり、併し概して生意氣の風は不相換にて母としての一大資格たる德性に至ては皆無といふも不可なきが如し、然れども尋常師範學校女子部にありては稍前日に勝れり、殊に本年第一回卒業生の如きは差しての非難をも受けざる有樣なれば、日子を重ね勉強と經驗とを積むに於ては將來に見込ある教育者と云も恥ぢざるべし。

●現今に於ては都鄙一般に女子教育の必用を感ずるに至れり然れども玆に最も悲しむべき一大警報をなさゞるべからざるは娼妓の跋扈是なり、我縣下の如きは、未だ堂々と廢娼論を主張するものなし唯藝備日々新聞が時々此問題を論述せるのみ、一般の人情未だ彼怪物を以て怪物となさゞるに似たり、故に彼等は至るところ傲慢を極め都會に於ては繁華なる最主要なるところに其居を占め白日醜態として橫行しつゝあるなり、又田舍にても戶數百四五十もある所なれば彼等は出稼的の風體を以て入込四五日乃至二十日位其地に逗流し醜跡を極めて在ること通常なり、故に田舍人は藝妓と娼妓の區別を知らざるは一般の常態なり、吾人は道德上より之を排除するに熱心なるものなり然れども其時に合せず空く天を睨て咄々と嗟呼する而已。

女報

あい子編

●皇太后陛下の御寫經　皇太后陛下には、來る十月五日が御實父九條尚忠前關白禪定殿下の廿年祭相當に付き、御追福の爲め御法會の當日東福寺へ納めさせ給はんとて、先日來の炎暑をも厭はせられず、日々金泥もて觀音經普門品を御手寫あらせらるゝ由に承る。

●東京婦人矯風會　去七月の米國コスモポリタン雜誌中に、ロッダル氏が近世十字軍一篇あり、世界婦人禁酒會の歷史を揭げ、中に東京婦人矯風會員の大寫眞を縮め揭載したり。

●淺川やす女史　元と、ヒアソン、ブリテン二女史に就て學び其后米國シカゴの女子醫科大學にて名譽を以て卒業したる淺川女史は、婦人科小兒科を專修し且つ外科に巧みなる人なるが、去年末歸朝の后ち直ちに加州金澤に赴むかれしが此頃ろ上京せられたり。

●新女子大學　米國ワシントン府に新らしき女子大學を設けんとてジョンペローガン夫人、エリサベス、ソマース夫人の二女史發起人となり、近日先づ五百万弗の募集に着手せんとす。

●女子宣教師會　六月の初めつ方、米國ボストンにて女宣教師團の年會あり、會頭ツード、ホウ夫人秀麗の演說ありしのち、書記ボールス女史の報告によれば、女宣教師の數益々增加す、クエーカーは此事に付き尤とも進步したるが、現に三百五十人あり、宇宙神教には三十五人あり、ユニテリアンには十六人あり、組合教會には六人あり、浸禮教會内には、一人にて三教會を牧する婦人もありとなり。

●婦女の海外醜業稼ぎ　山口縣萩の地たる廢藩置縣の後は、漸次に衰微し退して白堊軒を連ねし一大都會も今や暗淡として見る影もなき有樣となり果て、心あるものは皆先きにと各地方に出掛け或は長州出身の長官に賴りて官海の走となり或は諸會社に入り込みなどして、壯年以下の人々にて萩の地に殘れるものとては少き程なれば、市街の不景氣は年一年其の度を增したる處に、昨夏の如き物價狂騰に出喰したれば愈よ以て生計の途を絕らしが、女子の悲しさは各地に出でゝ糊口の途を求むることも思ひの儘ならず、加ふるに男子は概ね出稼して殘れるものは婦女子と老人のみ多き有樣なれば、自然風儀上の檢束をも失し其結果としては[illegible]分聞に堪へざる醜聞を耳にするも珍らしからざりしが、昨年來世間に喧びすしかりし海外密航醜業婦女の惡風は遂に萩の地にも吹き廻りて、其間には種々の教唆者出でゝ婦女子を欺むき此頃數十人を朝鮮地方に密航せしむるに至りたりとぞ、右の密航者は萩より直ちに朝鮮に向つて航海し朝鮮にて更らに上海元山及び浦潮斯德各地の商人に賣渡すものゝよし、何分密かに萩を解纜して直航することなれば今日まで絕て聞く處なく萩警察の手にても此事の探偵行き屆かざりしは、如何にも不審の至りなりと其向きにても云ふ者あり、差向き捨置くべからざる事件なればとて其筋より實地探聞の爲め近々吏員が出張する都合なり、兎角何れの地方にも醜業婦女の絕へざるは嘆息の至りなりと同地よりの通信に見ゆ。

●高等女子授産場　金澤工業學校の教諭持富介次郎氏等の發起にて、同地に設立せし同場は、此程開業をなしたるが、目下上等工女八名ありて、重もに屛風樣の黑繻子地に四季の草花及び格子掛樣の綸子又は絹地に種々の縫をなし居れり、追々隆盛に赴くの徴候あり。

●女學校に寄附金　彥根舊藩主井伊直憲伯には、彥根町立女學校へ年々金百圓宛寄附致したしと此程同伯の家扶より彥根町長へ申越したるよし。

●婦人の加榮　長州厚狹郡船木村小田婦人會より題號の雜誌發行せらる。

●四條伯女子を擧ぐ　兼て姙娠中の同伯夫人は、女子を分娩せり母子とも壯健に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

肥立せりといふ。

●麻布長坂香蘭女學校　は是迄尋常中學科以上の授業料一圓五拾錢なりしが今般一圓とし更に英國より學位を有する女敎師二名を聘し九月七日より授業を始むる由。

●日本全國卒業女學生一覽　（十四）

●地方の部

●千葉縣尋常師範學校　湯淺みい子、川村させ子、杉浦いさ子、金原ぎん子、齋藤さだ子、川村ゆう子、久保雄千代、野口すゞ子、中尾たつ子、大多和やす子、足立たけ子、丸さだ子、福木いさ子、鎌田てう子、岩田はる子、林せい子、松本いち子、柿内あなめ、峯島てい子、黒川きく子、行縄りう子、渡邊かく子、千葉くみ子、小出てう子、三橋ふみ子、吉場てい子（計廿六名）

●靜岡縣尋常師範學校　高井しげ子、吉澤さら子、木原とゆう子、渡邊てつ子、松岡しづ子、酒依こま子、柴田楯、村松はる子、松塚しん子、矢部かく子、香取さし子、佐藤しげ子、山形貞子、人見おさ子、小松崎いく子、稲葉しづ子、黒澤よれ子、森まる子、萩生さみ子、小川みい子、鈴木こう子、榎本はつ子、竹内もと子、小田やす子、望月ひで子、大手さよ子、關口ます子、小池きさ子、鬢靜江、大塚さく子、猪俣もと子、澤崎りう子、本間よし子、大塚おさ子、藤原たよ子、天野てる子、（計三十六名）

●山口縣尋常師範學校女子部　品川のぶ子、井上てつ子、渡邊ちつ子、中村しほ子、入江なほ子、渡邊ひで子、光田ひさ子、長よし子、松岡みつ子、飯田ゆき子、藤井みれ子、北村よし子、武波その子、藤田ちさ子、横山なほ子、岩佐かれ子、林ふき子、吉武うた子、南方はつ子、佐々木すま子、村田のぶ子、村上くり子、近藤すみ子、羽仁その子、伊藤ひさ子、木次かつ子、米田ひさ子、世木ちよ子、波多野しげ子、惠藤ふじ子、近藤まし子、桑原よれ子、河北ひさ子、渡邊まさ子、山田しづ子、山根たけ子、河野かつ子、澄田ます子、山本由利子、里瀬うめ子、世木あや子、岩佐つね子、湯淺りよ子、天野きよ子、杉岡いせ子、阿部つる子、三上さめ子、吉田みち子、井上たか子、有富むつ子、木原しむ子、岡村てふ子、上野もと子、佐々木はるの、門井ふみ子、藤井ちえ子、國木いで子、淺原たじ子、平石さき子、岩本せき子、松頭うめ子、上田さだ子、井上ふさ子、岩本さよ子、戸村やす子、（合六十五名）

●廣島縣尋常師範學校女子部　土居ふみ子、川村はるゑ子、岡田たづ子、山瀬しづ子、吉村やへ子、惠美せつ子、渡邊さよ子、清水ちゑ子、河村よね子、渡邊しづ子、杉山いそ、子吉川こと子、東備くま子、今澤のぶ子、林たま子、香川ふみ子、河野つたの、奥やす子、小谷たき子、（計十九名）

品名	九月三日
白米（一円ニ付）一等米	升合 一〇二
二等米	一〇五
三等米	一〇八
四等米	一一三
五等米	一一九
正米（一円ニ付）越中米	升合 一五三
美濃米	一四三
尾張米	一四五
忍領米	一四〇
一志米	一三六
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	升合 三七〇
上州小麥	二〇五
竹林麥	二三〇
柳澤大豆	二四〇
青柳大豆	二二〇
吟小豆	一七〇
黒胡麻	一五〇
白胡麻	一三〇
鹽（一円ニ付）赤穗、大塊、本齋、新齋　醤油（一円ニ付）最上、極上、上物、中物、並物　味噌（一円ニ付）地製上白、同上赤、同紅赤	二二五、一三〇、三九五、四三〇、七八、八二、八六、一、一五、一、一五、一、五五、一、七五、二、〇〇、品切、七、〇〇〇、七、〇〇〇、四、三〇〇

品名	九月三日
絹糸（一円ニ付）本練花色	匁 二七〇
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
同稀上黒	二五〇
同上黒	二八〇
延糸色物	三三〇
芥子糸	二九〇
同湖色	二四〇
極天色物	二四〇
色物太練	二六〇
紡績糸	四五〇
毛糸（百斤付）染分	円 一〇三、〇〇
中等目	九八、〇〇
中細	一二〇、〇〇
極細	一二三、〇〇
スコッチ	八〇、〇〇
同三本撚	八五、〇〇
眞綿（一貫付）上々入金	円 一二二、〇〇
上入金	一一七、〇〇
並入金	一一三、〇〇
濱縮緬（百目付）大巾上駲	円 四、九〇
小巾百廿目立	五、四〇
同並物	四、八〇
糸吉生絹（一疋付）六十目附	匁 二六、〇〇
八十目附	二八、〇〇
九十目附	二八、〇〇
百目附	二九、〇〇
六丈本紅	
五十目立	円 五、五〇
甲斐絹（一反付）本場上物	円 三、八〇

品名	九月三日
製茶（一斤付）山城江州稀大頭	円 二、五五
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇五
狹山稀大頭	一、九〇
同稀頭	一、六〇
同大頭	一、二五
同中頭	一、一五
同中茶	九五
炭（一円付）伊豆上	俵 四五〇
同中	五六〇
同並	六五〇
角備上	二七〇
丸備上	二三〇
土釜	八五〇
乾海苔（百枚付）洲崎上	円 一、〇五
大森同	一、〇五
深川同	一、〇五
大師潮田	八〇
仙臺	六五
水油（一樽付）地水	円 六、三五
胡麻油	九、三〇
荏油	九、二〇
桐油	六、五〇
綿油	七、四〇
坂水	七、四五
石油（一箱付）チヤスター	円 一、六〇
デボース	一、五九
ホーキ	一、六三
ロレヤ	一、五九

私立 明治女學校 生徒募集 廣告

小學尋常科卒業の人は無試驗にて最下級即ち豫科第一年級に入ることを得。
豫科を三年とし高等小學科の教授を悉くす。吉田のぶ子其科長たり、巖本善治氏之を監理す。
豫科了りて後ち本科を三年とす、賢妻良母を養成することを主旨とし、家政女藝及び女學悉とく教授す。
●右九月十日後各級に入學を許す、規則書needed用の人は郵劵封入申越あれ。

東京下番町 明治女學校

立教女學校生徒募集

本校九月十一日始業入校志願の方は來校あれ新規則入用の方は貳錢切手封入申込あれ

京橋區築地廿六番

東洋英和女學校 來ル九月八日始業

ラージ夫人本月十二日加奈陀ヨリ無恙再來今後顧問トシテ學校ノ爲盡力ス○寄宿生ハ九月七日歸校スベシ○新入生試驗ハ九月八日午前更ニ規則書入用ノ方ハ郵劵封入申越アレ

麻布鳥居坂十四番地

私立 東洋英和女學校

●●●●●●
專門

梅毒 痔疾 子宮 痳疾

右四科は院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管該患者に施療したる處にして速に全治受合なり若し全治せざれば藥價返却す●但し診察無料

京橋銀座二丁目東仲通

畑中堂 山本醫院
●●●●●●

雅俗 諸躰 作文口授 全

鈴木弘恭先生口述
名園文敬科書

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ擧ラレタリ此書ヲ一目セバ如何ナル初學ト雖モ消息記事論說諸躰ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルヘシ諸君速ニ購ヲ試ミ賜ヘ

出版所 神田美土代町四丁目五番地 敬文堂
賣捌所 麹町下六番町六番地 女學雜誌社

九月十日始業各級入學ヲ許ス本館ニ於テハ和漢學英佛獨語數學理化學裁縫編物茶湯和洋書學音樂等ヲ教授シ日本人七名外國人三名ニテ之ヲ擔任ス寄宿志願ノ方ハ前以テ通知アレ規則書入用ノ方ハ郵劵二錢ヲ送ノレヨ

廿四年八月

麹町區上六番町
十七番地

女學生募集

私立 開成女學館

皇后宮御覽

文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院醫學士三島通良先生編述

增補訂正 第二版

親の巻 妊婦産婦の心得 定價金三十錢(郵税二錢)
子の巻 育兒法 定價金四十錢(郵税四錢)

右は我國無双完全無比なりとの好評を博したる日本子母衛生書なり、華族女學校醫科大學産科婦人小兒科病室並に群馬縣高等小學其他の諸學校に於て參考書として用ゐらる、文章は談話體總平假字付にして極めて理解し易し。婦人方への贈物として最上の好品なり

書肆

通三丁目 丸善。表神保町 中西屋。馬喰町 島利。本石町 島利支店。通旅籠町 中央堂

下六番町 女學雜誌社

本校は芝三田聖坂高燥の地に在つて眺望空氣在學生の衞生に適す今回良教師を聘し科目に改良を加へたり且時々學者教師を聘して演說講義をなし生徒智德の開發を補益せんとす入學を望む者は至急申込むべし
郵劵貳錢を送れば規則書を呈す

芝區三田功運町
三十番地

私立 普連土女學校

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學書類發行　女學雜誌社編輯

家庭廉價 子供の談　紙數八十葉　郵税なし　定價十二錢

右は子供の爲にある好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舎音樂師。第二、董の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とタヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も悪き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮　紙數六十七葉　郵税なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を迎する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理　紙數百九十葉　郵税なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村圖鎗爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内　紙數百廿葉　郵税なし　定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草　紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答體にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學　紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

立教學校生徒募集廣告

本校改革創新ノ第弍年期ニ際シ茲ニ學則ヲ改正ス本校ハ社會實用的人物ヲ養成セン爲高等普通學ヲ教授ス教員ハ米人四名日本人理學士木村駿吉同山岡太次郞農學士河村九淵大學古典科卒業生熊田鐵次郞諸氏外七名束修貳圓月謝一圓校費廿錢熟費三圓四十錢入學志願者ハ來ル九月五日マデニ申込ムベシ規則書ハ二錢郵劵ヲ添ヘテ照會アルベシ大阪名古屋前橋ニテ地方試驗ヲ執行ス

東京々橋區新榮町七丁目三十七番地

立教學校

主監　左乙女豐秋

第三版

百人一首講義

上製美本　五十錢　郵税六錢
並製淡裝　三十五錢　同　四錢

綠夏の講書に宜し　遺物に宜し
歌留多遊びに宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

雜誌	一冊。	六錢	郵税。五厘（但府内無郵税）
	十二冊。	五拾八錢	郵税。五錢（同前）
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

子供の談
紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲にある好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、龍の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とダヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮
紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を迴する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理
紙數百九十葉　郵稅なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷妊の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄となしたるもの也。

和畫案内
紙數百廿葉　郵稅なし　定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草
紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學
紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は同志社敎師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

學校生徒募集廣告

本校改革創新ノ第弍年期ニ際シ玆ニ學則ヲ改正ス本校ハ社會實用的人物ヲ養成セン爲高等普通學ヲ敎授ス敎員ハ米人四名日本人理學士木村駿吉同山岡太次郎農學士河村九淵大學古典科卒業生熊田鐵次郎諸氏外七名束修貳圓月謝一圓校費廿錢塾費三圓四十錢入學志願者ハ來ル九月五日マデニ申込ムベシ規則書ハ二錢郵劵ヲ添ヘテ照會アルベシ大阪名古屋前橋ニテ地方試驗ヲ執行ス

東京々橋區新榮町七丁目三十七番地
立敎學校
主監　左乙女豐秋

第三版
百人一首講義

上製美本　五十錢　郵稅六錢
並製淡裝　三十五錢　同　四錢

緣夏の讀書に宜し　遺物に宜し
歌留多遊びに宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

雜誌	一冊。	六錢	郵稅。五厘
	十一冊。	五拾八錢	郵稅。五錢（但府內無郵稅）
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は壹圓五拾六錢（同　前）
	一年分	貳圓六拾錢	府外は貳圓八拾六錢

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三